





Tyrecontrol2



User Manual (JP)

Introduction

TYRECONTROL2 機能 :

- 空気圧の測定
- 空気圧調整（減圧のみ）
- タイヤ/アスファルト表面の温度測定(A1910)
- 5台495セットまでのデータ保存（5x99セット）
1 セット = 34項目までのデータ + 時間と日付 < 走行前  と走行後  >
- "VISUALTYRE" ソフト：データを記録しその解析、及びデバイスの調整

電池交換

データの消失を避けるため電池を取外す前にスイッチオフして下さい。 "+" と "-" を間違わないように新しい電池を取付けて下さい。

Battery Type : 単3 x 2本

重要： 機器への電池の漏れを防ぐために、有名ブランドで製造された高品質のアルカリ電池を使用することが不可欠です。

電池の液漏れによる故障は保証の対象外となります。

注意

Tyrecontrolは精密機械です、エンジンの点火に電流に非常に敏感です。

エンジンが作動しているときに誤った測定値を記録したり「フリーズ」するのを防ぐために、Tyrecontrolとエンジンの距離最低50cm以上に保ってください。

スイッチオン TYRECONTROL

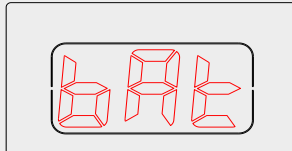
- 中央ボタンを押すと  , TYRECONTROLはスタートします :
バックライト無し
- 中央ボタンを2秒長押ししてTYRECONTROLはスタートします :
バックライト有り 

スイッチオフ TYRECONTROL

メニュー« OFF »の選択 又は10分間使用しなければ自動的にオフ

ローバッテリーの検出

Tyrecontrolが電池の弱いレベルを検出するとすぐに、メニューに«BAT»が点滅して表示されます。



働き

TYRECONTROLは8つのアイコンに示される8つのオプションがあります :



SETUP

RECORD

このオプションは、新しいデータを記録します。

手順：No079を割り当てて、車両3の圧力と温度を記録します。（メニュー«SETUP»、ページ12、«車両番号の割り当て»を参照）



1) ボタンを操作して **▽** , « RECORD »を選択します (figure 1)

▪ « RECORD »ポジション, Tyrecontrolの表示 :

- > 現在の日付時間
- > 現在の圧力 (最初の測定許可)
- > 車両1の最後の« Set »の圧力

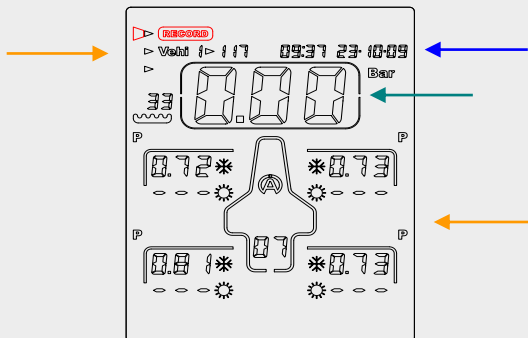


Figure 1

2) ボタン **▽** or **Ok** « Vehi » を選択 (figure 2)

3) ボタン **◀** or **▶** 車両番号を選択 (figure 2)

▪ « VEHI »ポジション, Tyrecontrolの表示 :

- > 車両3の最後の« Set »の日付時間
- > この« Set »の圧力

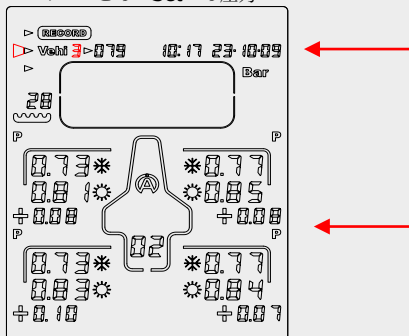




Figure 2

4) ボタン  or , « **FACE** »を選択 (figure 3)

▪ « **FACE** »ポジション, Tyrecontrolの表示 :

- 現在の日付時間
- 現在の圧力又は温度(プログラムされた順序に従って)

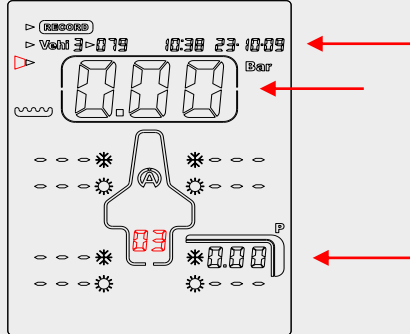


Figure 3

例 (figure 3), Tyrecontrol

は、車両3のSet3の走行前の測定準備が出来ており右リアから測定を始めます。

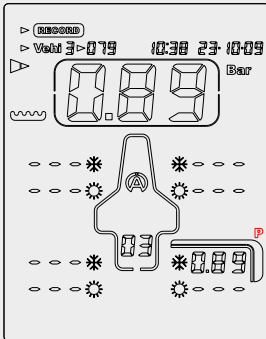


Figure 4

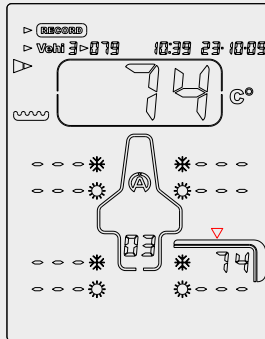


Figure 5

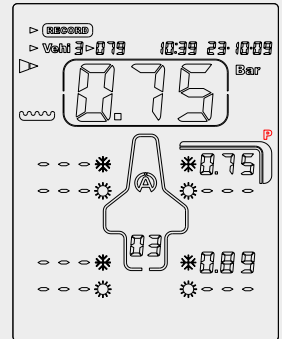



Figure 6

5) タイヤバルブに測定口をさし込みます (figure 4)

6) 中央ボタンを押します  圧力と同時にその時の日付時間を記録します



その後、画面に表示されているキャプチャポイントは、メニュー-SETUPでプログラムされた手順に従って自動的に移動します。例 (Figure5) では、右リアタイヤの中央の温度の測定値に配置されます。

- 7) 画面の矢印で示されているタイヤの部分に温度センサーを当てます。
(figure 5).
- 8) 中央ボタンを押します  測定温度を記録して
Tyrecontrolは次の手順に進みます (Figure 6).
- 9) プログラムされた手順の最後までこの方法で操作してください。

記：



アスファルト測定キャプチャーは  全ての手順の最後に自動的に選択されます

« 走行前  走行後  ».

- 10) アスファルト温度記録後、Tyrecontrolは自動的に « RECORD »メニューに戻ります。

注：希望する順序で一連のキャプチャー（温度と圧力）をプログラムすることができます（メニュー«SETUP»15ページ、「キャプチャーシーケンスの設定」を参照）。

RECALL

このメニューは記録されたデータを呼び出すことから成ります。





手順：No117が割り当てられた車両1のデータを呼び出します。



- 1) ボタンを使用して  , « RECALL »を選択します (figure 8)

- « RECALL »ポジション, Tyrecontrolの表示：

- 現在の日付時間
- 車両3の最後の « Set » の空気圧

- 2) ボタン  or  , « Vehi »を選択 (figure 9)
- 3) ボタン  or  , 希望の車両を選択 (figure 9)

- « VEHI »ポジション, Tyrecontrolの表示：

- 車両1の最後の « Set » の日付時間
- この« Set »での圧力

4) ボタン  or , « **FACE** »を選択 (figure 10)

- « CADRAN »ポジション, Tyrecontrolの表示 :
 - « VEHI »と同様

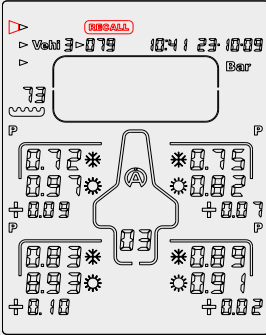


Figure 8

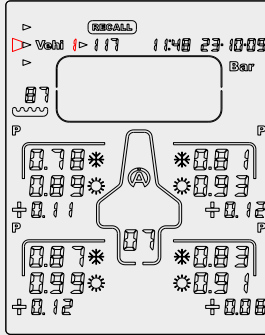


Figure 9

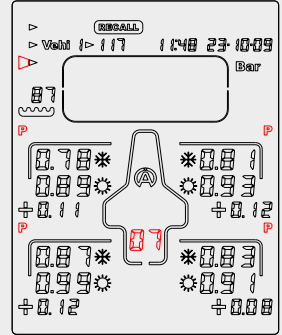


Figure 10

«Figure10»の例では、Tyrecontrolは車両1に対して、最後に記録された«Set»のデータの最初のフェーズ、

つまり走行前  走行後  のタイヤの圧力+ギャップ

を表示します。

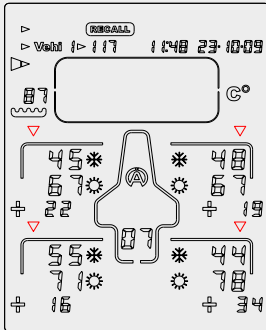


Figure 11

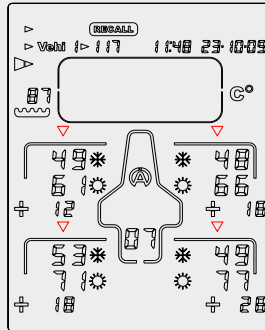


Figure 12

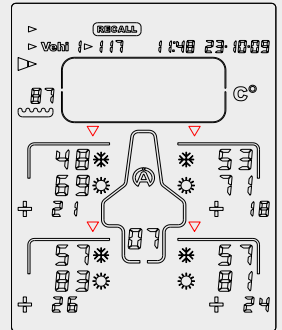

















Figure 13


5) 押すボタン  or  : Tyrecontrolは セカンドフェーズのデータを表示します

走行前  走行後  のタイヤ外側部の
温度とその差を表示します(Figure11)

- 6) 再度ボタン押し  or  : Tyrecontrolはサードフェーズのデータを表示します
走行前  走行後  の
タイヤ中央部の温度とその差を表示します(Figure12)
- 7) 再度ボタン押し  or  : Tyrecontrolは最後のフェーズのデータを表示します
走行前  走行後  のタイヤ
内側部の温度とその差を表示します(Figure13)
- 8) 再度ボタン押し  or  : Tyrecontrolはファーストフェーズの最初のSetを表示
します
- 9) 体系的にボタンを押す  or  選択車両の記録された全てのデータを検索できます
- 10) ボタンを使うと  : 記録データを逆に検索できます

- 右側の上に表示されている時間と日付は、データの取り込みが行われた瞬間を示します。

走行前 

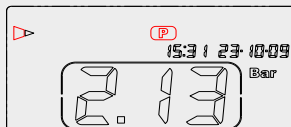
走行後  « Set » で表示。



このメニューは圧力を測定することから成ります

手順 :

- 1) ボタンを使い      « **P** » を選択。
- 1) タイヤバルブにTyrecontrolの測定口を当てます。




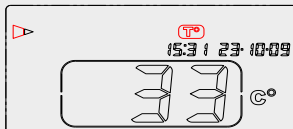
現在の日付時間を表示しています

T°

このメニューは温度を測定することから成ります。時間と日付はリアルタイムで表示されます。

手順：







- 1) ボタンを使い  « **T°** »を選択
- 2) タイヤに温度センサーA481を付けます。



RST

このメニューは記録されたデータを消去します

手順：

- 1) ボタンを使い  « **RST** »を選択 (figure 14)
- 2) ボタン  or  « **Vehi** »を選択 (figure 15)
- 3) ボタン  or  車両を選択 (figure 15)
- 4) 中央ボタンを押す  1秒押しで車両1の全てのデータが消去されました (figure 16)

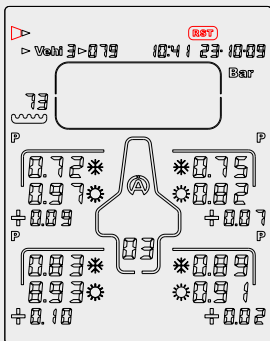


Figure 14

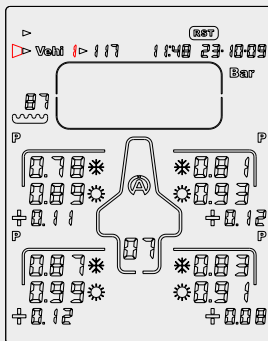


Figure 15

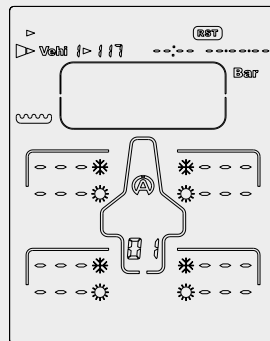


Figure 16

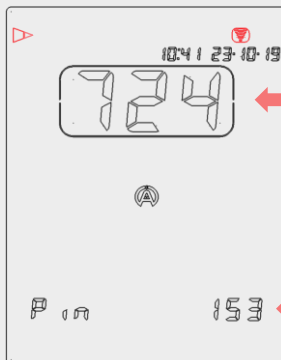


Bluetooth

このメニューは、Bluetoothを有効にし、記録されたデータをAndroidまたはiOSのアプリケーションに転送できるようにすることで構成されています。Apple StoreまたはGoogle Playから無料でAPPをダウンロードしてください。

手順：

- ボタンを使い
- アイコンを選択します



ID number of Tyrecontrol2

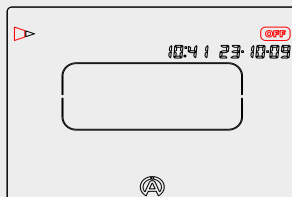
Pin number to be introduced the first time in the APP

OFF

このメニューはTyrecontrolをオフにします。

手順：

- 1) ボタンを使い
- アイコンを選択



- 2) 3秒待ち

注：Tyrecontrolがメニュー«OFF»にないとき、10分間使用しなければ自動的にオフになります。

SETUP

これらのメニューはTyrecontrolの様々なパラメータを設定することから成ります：

- 1) 車両数の割り当て « menu 01 » (page 12)
- 2) 時計とカレンダーの調整 « menu 02 » (page 13)
- 3) 単位の選択 Bar/PSI « menu 03 » (page 14)
- 4) 単位の選択 C°/F° « menu 04 » (page 14)
- 5) 車種の選択 « menu 05 » (page 15)
- 6) キャプチャのシーケンスの設定 « menu 06 » (page 15)
- 7) 圧力センサーの校正 « menu 07 » (page 18)
- 8) 温度センサーの校正 « menu 08 » (page 19)
- 9) 情報メニュー：シリアル番号とファームウェア番号

SETUPに到達するための手順：

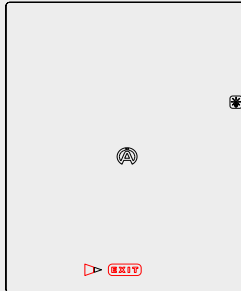
- 1) Tyrecontrolを停止する必要があります。
- 2) 中央ボタンを押します Ok 最低5秒間 Tyrecontrolは最初のSETUPメニューを始めます
最初のSETUPメニュー：« 車両数の割り当て »。

メニューを閲覧する手順：

ボタン押し ◀ or ▶

モードSETUPを終了する手順：

- 1) メニュー«温度センサーの校正»の後、






- 2) 中央ボタン押し Ok « EXIT », Tyrecontrolは、« RECORD »を始めます

01) 車両数の割り当て :


手順 :







1) この画面で中央ボタンを押します  メニューに入り, « Ent »が消えます

2) ボタン  or  車両数を選択、1から5まで、

Vehi 5 >   


3) ボタン押し  車両の番号を変更、0から999の範囲で選択します。


Vehi 5 >   

4) ボタン   車両番号を変更、数字の高速スクロールを有効にするには、押されたボタンを1秒以上押し続けます。

Vehi 5 >   

他の車両に番号を割り当てる:


5) ボタン押し  戻ります 2行目から説明したように、操作を繰り返すだけです。

6) 中央ボタン押し  メニューを離れます

注：メニューから出た後、割り当てられた番号を持つ«Vehi 1»のみが表示されます。

重要： _____

- 車両 1 の番号がゼロに調整されると、
















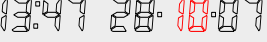






Vehi 1 >   

Tyrecontrolを使用している場合、システムは他の車両を選択することができません。

02) 時計とカレンダーの調整 :

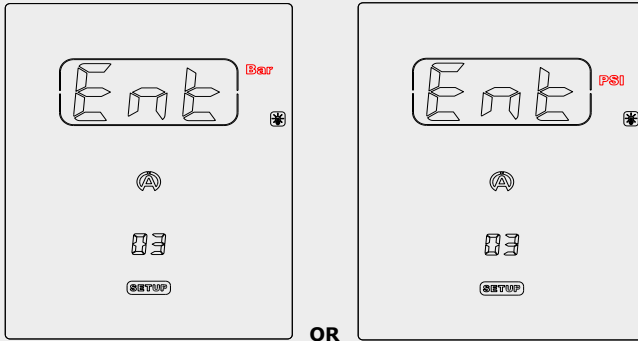
手順 :



- 1) この画面で中央ボタンを押します  メニューに入り, « Ent » が消えます
- 2) ボタン   時間の変更

- 3) ボタン押し  分の変更に移動
- 4) ボタン   分の変更 数字の高速スクロールを有効にするには、押されたボタンを1秒以上押し続けます

- 5) ボタン押し  日の変更できます
- 6) ボタン   日を変更

- 7) ボタン押し  月の変更できます
- 8) ボタン   月を変更

- 9) ボタン押し  年の変更できます
- 10) ボタン   年を変更

- 11) ボタン  戻ります
- 12) 中央ボタン押し  メニューから出ます

03) 単位の選択 Bar / PSI:

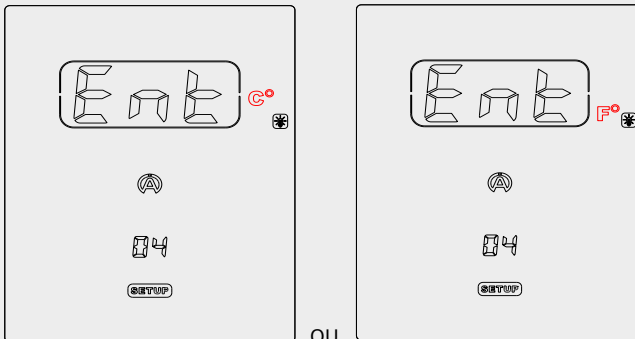
手順:



- 1) 2つのウィンドウのどちらかがあるので、中央のボタンを押す Ok メニューに入り, « Ent » が消えます
- 2) ボタン ▽ or △ 単位の変更
- 3) 中央ボタン押し Ok メニューから出ます。

04) 単位の選択 °C/°F:

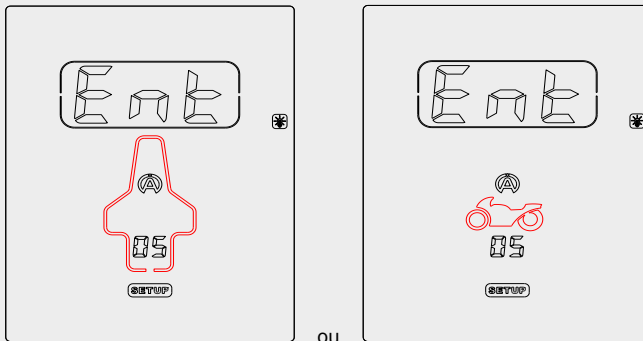
手順:



- 1) 2つのウィンドウのどちらかがあるので中央のボタンを押す Ok メニューに入り, « Ent » が消えます
- 2) ボタン ▽ or △ 単位の変更
- 3) 中央ボタン押し Ok メニューから出ます。

05) 車種を選択 :

手順 :

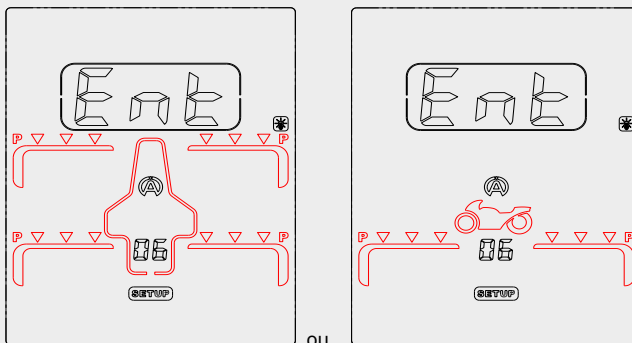


ou

- 1) 2つのウィンドウのどちらかがあるので、中央のボタンを押す **Ok** メニューに入り、「Ent」が消えます
- 2) ボタン **▽** or **△** 車種を変更する（自動車またはバイク）
- 3) 中央ボタン押し **Ok** メニューから出ます。

06) キャプチャのシーケンスの設定 :

手順 :



ou

- 1) これら2つのウィンドウのうちの1つ（メニュー「05」によります）中央ボタンを押します **Ok** メニューに入り、「Ent」が消えます

注：以下の説明は自動車の例に基づいています

- 2) 左フロントタイヤの最初のアイコン«P»（圧力）がデフォルトで点滅 (figure 17).

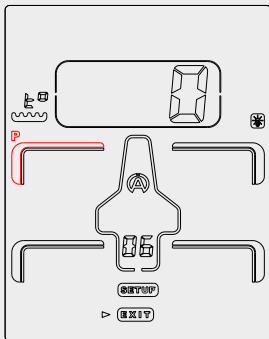


Figure 17

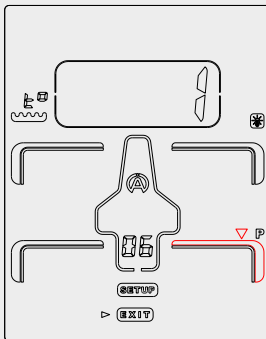


Figure 18

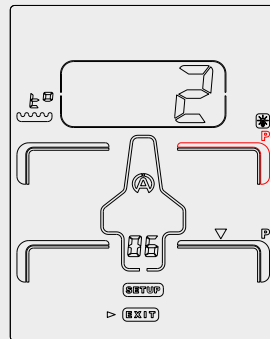



Figure 19

- 3) 最初のキャプチャを別の場所でプログラムしたい場合は、車両上の別のアイコンを選択してください。このためには、4つのボタンで移動する必要があります




- 4) 中央ボタンを押します  選択を確定 (figure 18).

確認後、選択したアイコン«P»がフリーズし、番号1が«CADRAN»に表示されます。その後、別のアイコンが自動的に点滅して表示されます（赤い矢印、Figure18）。2番目のキャプチャの場所があなたに合わない場合、同じことを、上で説明されているように操作を繰り返します (Figure19)。

このようにして、必要に応じて圧力と温度の間の優先順位を持つキャプチャの組み合わせを作成できます。

- 5) 必要に応じてキャプチャポイントをプログラムした後、4つのボタンを使用して「終了」アイコンに移動します。

- 6) 中央ボタン押し  メニューから出ます。

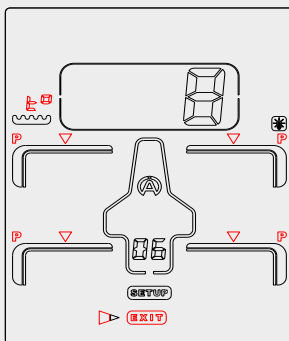


Figure 20

«Figure20»では、希望する優先度順に4つのキャプチャポイントの圧力+ 4つのキャプチャポイントの温度+アスファルト温度のキャプチャポイントでプログラムされていることを示しています。

記：

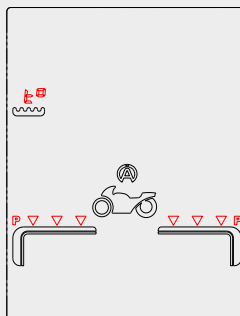
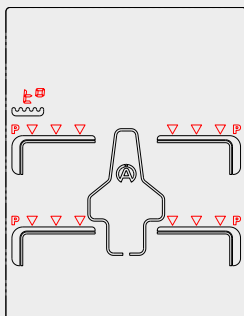
RECORDモードでは、アスファルトの温度を記録するポイントは、

走行前 ❄️

走行後 🌞 の各シーケンスの最後に自動的に選択されます。

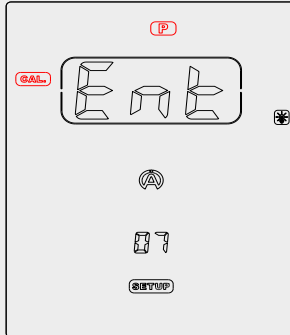


下の2つの図は、車両（左側）とバイク（右側）の利用可能なキャプチャ場所を表しています。



07) 圧力センサーの校正 :

手順 :



- 1) この画面で中央ボタンを押します Ok メニューに入り、「Ent」が消えます
- 2) 中央ボタンを押します Ok 圧力センサーを校正してメニューを終了します (Figure23)。

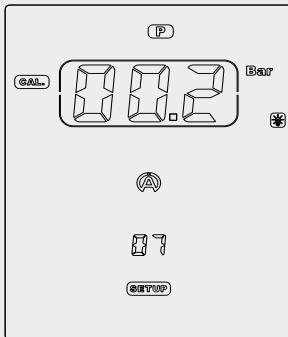


Figure 21

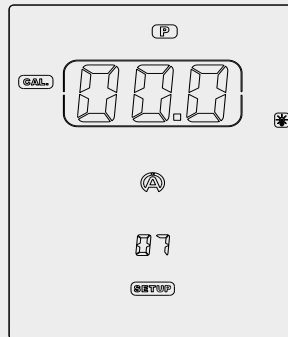


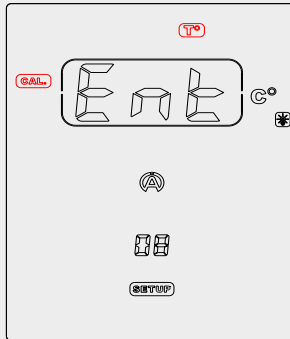
Figure 22

記 :

- Tyrecontrolに圧力が入力されていないのにFACEが圧力の値を示しているときにセンサーを校正してください (例 : Figure21) 。 Tyrecontrolの測定口はフリーでなければなりません。
- 重要 : 圧がかかっていない状態で校正して下さい。

08) 温度センサーの校正 :

手順 :



- 1) この画面で中央ボタンを押します Okメニューに入り、「Ent」が消えます
- 2) 温度センサーを接続します (figure 23).
- 3) ボタン V A で表示されている温度が基準温度に対応するように「FRAME」の温度を調整します (figure 24)

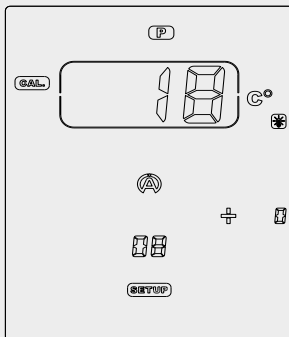


Figure 23

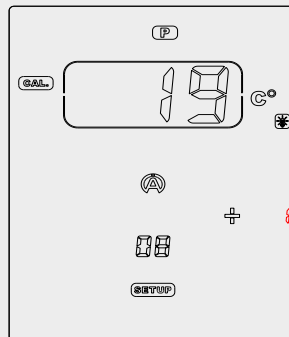


Figure 24

記 :

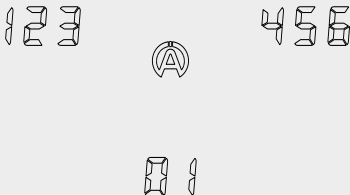
- 参照する温度は精密温度計から来る必要があります。
- これらの装置の2つのセンサーは同じ場所に配置する必要があります。
- 2つの表示値が安定するのを待ちます。

- 3) 中央ボタン押し Okメニューから出ます

<< 09 >> 情報メニュー：シリアル番号とファームウェア番号

画面の下部中央にファームウェア番号（2桁）とデバイスのシリアル番号（6桁：左側に3つ、右側に3つ）が表示されます。

例：



Warranty conditions

All our devices have been subject to in-depth factory tests and are covered by a 24-month warranty against manufacturing defects. The warranty comes into force from the date of purchase. The date of purchase is the date stated on the invoice/till receipt given by the seller at the time of sale. The manufacturer undertakes to repair and replace free of charge any parts which have a manufacturing defect during the warranty period. Any defects which cannot be clearly attributed to the material or the manufacturer will be examined at one of our approved after-sales service centres and invoiced depending on the results. The warranty does not apply in cases of device opening, accidental damage, negligence or misuse, inappropriate or incorrect installation or failure to perform the installation in accordance with the instructions contained in the attention note and in events not associated with the rules of operation and use of the device. The warranty will become null and void in cases of repair or handling carried out by unauthorised third parties. Intervention under warranty does not entitle to the device replacement or warranty extension. Intervention under warranty is carried out at one of our approved after-sales service centres or at our head office. In the latter case, the item must reach our establishment postage paid, that is, transport costs shall be paid by the user. The manufacturer undertakes no responsibility for any damage to persons or goods caused by poor installation or incorrect use of the device.

Product modifications

Alfano SA applies a method of ongoing development. Consequently, **Alfano SA** reserves the right to make changes and improvements to any product described in this document without prior notice.

Damages and responsibilities

The products are used under the customer's sole direction and responsibility and therefore damages suffered or caused by the products shall be borne by the customer. No compensation will be paid for removal of enjoyment, and ALFANO cannot be held responsible for the direct or indirect consequences of their use or rendering useless. ALFANO's obligations are duty of care and not a performance obligation.

Disposal

The device must be disposed of with respect for environment. The chronometer and its accessories contain many plastic parts. When the chronometer or one of its accessories no longer functions, they must be dealt with according to the laws of the country. Used batteries must be disposed of in accordance with the regulations in force in your country.



alfano.com

10-03-2019